障害児キャンプ指導経験が
大学生における障害児指導の意識に及ぼす影響

島﨑彩奈　（　京都教育大学　）

１．目的

本研究の目的は、障害児キャンプの指導経験が大学生における障害児指導の意識と指導スキルに及ぼす影響を明らかにすることである。

２．研究方法

対象者はＫ大学学生 164 名､障害児ボランティアスタッフ 33 名、障害児キャンプスタッフ 31 名の計 228 名であり、以下の質問紙調査を実施した。

①障害児に対する態度尺度
②特別支援教育負担感尺度
③障害児指導スキルに関する質問紙

得られたデータは重回帰分析、t 検定および分散分析の統計処理を行った。

３．結果と考察

１）障害児および特別支援教育への意識について

各因子得点を従属変数、性別と教育指導経験 6 項目（①教育実習・②特別支援学校実習・③介護等体験・④障害児キャンプ指導・⑤障害児対象学校教育支援・⑥障害児対象ボランティア）を独立変数とする重回帰分析を行った。そして影響があると示唆された要素を中心に因子得点の差を分析した。その結果、性別では男性よりも女性の方が障害児や特別支援教育に対して積極的であった。また教育指導経験の中では特に、障害児キャンプ指導経験の有る学生は意識がポジティブ（積極的・意欲的）であることが顕著であった。さらに障害児キャンプ指導経験の経験日数が多いほど、障害児および特別支援教育への意識は向上することも明らかとなった。

これらのことより、障害児キャンプ指導を経験することが効果的であると示唆された。

２）障害児指導スキルについて

各因子得点を従属変数、性別と教育指導経験 6 項目（意識の時と同様）を独立変数とする重回帰分析を行った。そして影響があると示唆された要素を中心に因子得点の差を分析した。その結果、性別では女性よりも男性の方が障害児指導スキルは高かった。また、教育指導経験の無い学生よりも経験の豊富な学生の方が障害児指導スキルの自信を表す指導スキル合計得点が高いことが明らかとなった。その中でも特に、障害児キャンプ指導経験の有る学生は全ての因子において顕著に障害児指導スキルが高く、障害児キャンプ指導経験の経験日数が多い方が、障害児指導スキルは向上することも明らかとなった。

さらに指導スキルの項目ごとでは、経験有りの学生の中で、基本的な指導に関する内容では自信が高いのに対し、トラブルなどへの対応に関する内容については自信が低くなっていることが明らかとなった。しかし、経験の無い学生については、全体を通して低い傾向にあるため、障害児指導スキル向上のために、障害児キャンプ指導を経験することが効果的であると示唆された。

４．結論

本研究では、様々な教育指導経験の中でも、障害児キャンプ指導経験によって、障害児および特別支援教育への意識がポジティブになるとともに、障害児指導スキルも向上することが明らかとなった。障害児キャンプでは､キャンプの技術指導だけでなく、生活指導も行う必要があり、長い時間子どもと生活することで、障害児との関わり方や支援の仕方について経験することができるためと考えられる。

このことは、学校現場で特別支援教育が推進されている近年の現状において、障害児キャンプがもたらす教育効果が参加者だけでなく、指導者となる大学生においても実証されたことを示す貴重な資料となるだろう。

５．主な参考文献

渡邊照美・青山芳文・稲冨まどか、障害児との接触経験の時期および内容と障害児に対する態度との関連について、教育支援センター紀要（2016）